

民主青年新聞

DEMOCRATIC YOUTH NEWSPAPER

みどころ

消費税は公平じゃない?

「治安維持法100年」のとりくみ

未来を生きるあなたに

6、7面

3面

10、11面

▶ ホームページ www.dylj.or.jp ▶ Eメール minsins@dylj.or.jp



▲「お米はたまにしか食べなくなった」と話す青年(左)(3月19日、渋谷)

異常な物価高騰が止まりません。総務省が3月28日に発表した3月の東京都部消費者物価指数は、価格変動の大きい生鮮食品を除いて、前年同月比で2.4%上昇しました。プラスは43カ月連続です。街の青年がどのように受け止めているか聞くとともに、物価高騰から暮らしを守る対策について、日本共産党政務委員会の湯浅和己さんに聞きました。(齊藤崇記者)

止まらぬ物価高騰

「がんばって切り詰めている」

街の青年は、物価高騰に「とんと買えなくてパンばかりで」といったような実感を持っていて、最近値段が上がったと話した。食費以外にも「服を集めるのが趣味ですが、最近控えるようになって困っているものについて」と話している。会社員の青年(23)は「以前は2カ月に1回お米を買っていたが、最近はお米が上がる方が勢いがある気がする」と話している。

「がんばって切り詰めている」と語りました。一人暮らしをしている大学院の2年生は「お米が買いたいときに買えない。スーパーに行ったら、特に安いところで買うとすると品切れしているところがある」と話します。物価の高騰に対して賃金が見合っていないかどうかわからないというが、物価に対しては「時給は上がっているように感じる」と話している。湯浅和己さんに聞きました。

青年・国民の暮らし優先の財政を

実感通りの数字

「今、どれほどの物価高騰が起きていますか?」(対1年前比)は「上がりますよ!」値上げの深刻さは、統計調査でもはつきりと表れています。2月の消費者物価指数は、天候による変動が大きいために、前年同月比で3.0%上昇、3カ月連続で3%を上回りました。中でも「米類」は80%を超え、過去最高を記録しました。野菜や果物などの「生鮮食品」は18.8%で、2桁の上昇が3カ月連続しています。昨年12月の日銀が発表した生活意識アンケート調査

で、現在の物価に対する実感が「かなり上がる」と答えた人が31%でした。青年のみなさんが買いたい物をするときに感じている通りの不安が、数字にも表れていると思います。政府はようやく備蓄米の放出を始めましたが、根本的な改善は見込めません。自公政権による長年の農業軽視によって生産基盤が弱体化したことが米不足の原因です。野菜の価格高騰は、気候変動の影響が大きいです。

背景に「強欲インフレ」

なぜ物価高騰によって国民の暮らしは苦しくなっているのですか? 2022年のウクライナ侵略の時点で大きく物価が上がり、その後田舎が続いた影響でさらに上がって、インフレとは大企業がコスト増以上に値上げを繰り返す一方、賃上げにはほとんど回さないという企業が続いています。物価高で生活が苦しい。物価高で生活が苦しい。物価高で生活が苦しい。

2025年3月の前年同月との物価の比較

	総合	食料			食料を除く	住居		
		生鮮食品	食料品	生鮮食品を除く				
前年同月比(%)	2.9	2.4	2.2	6.7	12.9	5.6	1.1	
	光熱・水道	家具・家事用品	被服及び履物	保険医療	交通・通信	教育	教養娯楽	諸雑費
	4.7	5.2	3.1	2.4	2.3	-9.3	2.2	1.2

総務省「2025年基準消費者物価指数 東京都部2025年(令和7年)3月分(中旬速報値)」を基に作成